

児童生徒の成長につなげることのできる学習評価の仕方

1 はじめに

特別支援教育においては通常学校とは異なり、柔軟な教育課程の編成が求められている。それは児童・生徒の実態や本人・保護者の願いを反映させたものでなくてはならない。授業の指導と評価の一体化は切り離すことのできないものである。今回は学習評価に注目してそのよりよい在り方をみていく。

2 学習評価とは

学習評価は、学校における教育活動に関し、子供たちの学習状況を評価するものである。評価というものは人の成長や自信につながらなければ意味がないと考える。さらに子どもにとってはその1つ1つの評価が子どもの人格形成に大きくつながり、自分自身を客観的にみることのできるよい機会にもなるだろう。

3 現状と課題

「特別支援学校における学習評価の考え方は、基本的に小・中・高等学校における学習評価の考え方と変わらないが、実際の学習評価に当たっては、児童生徒の障害の状態等を十分理解し、児童生徒一人一人の学習状況を一層丁寧に把握する工夫が求められている。」とされている。また、各教科の指導や自立活動は個別の指導計画を作成することが求められている。カリキュラム・マネジメントの重要性や観点別評価の重要性も高まってきている。

4 よい評価の仕方

評価の仕方については学習指導要領改訂に伴い、何度も変化してきている。特に特別支援教育では「自立と社会参加」が大きな目標である。これらを見据えて数字ではなく、文章で1人1人の強みや人間性を評価していくことが最もよいと考える。さらに、その評価をもとに教育課程編成にも生かし、改善していくべきである。教育は医療や福祉と異なり、児童生徒に生きる意味を見出し、社会に送り出す1つの通過点であり、その子の一生を支える概念をつくる。1人1人に価値を与え、能力を伸ばす。これは教育だからこそできるものである。そこで教師と児童生徒の信頼関係を支える1つのものとして評価はなくてはならないものであり、それにより成長できれば評価を役に立たせることができたと言えるだろう。

参考資料

file:///C:/Users/honoka/Downloads/D-370.pdf

[資料1 特別支援教育の教育課程と学習評価 \(川間委員説明資料\) \(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp)